

Nepal Project 2010

【概要】

事業名： Nepal Project 2010
主催団体： Pax IV Hyper
渡航期間： 8月29日～9月16日
活動地： ネパール連邦民主主義共和国カトマンズ盆地及びその周辺
目的： ▽若い世代を中心に幅広い世代の環境問題への意識向上
▽ごみ処理における公共の場での習慣づけ
▽学校でのごみ処理システムの整備
協力： Kantipur Open Rover Crew (以下KORCとする)

【活動報告】

今年度の活動は9つのプログラムにより構成された全てのプログラムはKORCの協力のもと、Kanti Ishwori Sishu Vidhyalayaで展開された。

・レクチャー (環境レクチャー)

ごみの投棄の悪影響及びごみの分別方法を、プロジェクターを用いた講義で理解してもらい、生徒たちのごみに対する意識の改善を図った。変圧器の故障によりプロジェクターを利用することは出来なかったが、グループ形式でPCのモニターを利用することで対応した。講義後回収したアンケートでは、理解できたという回答がほとんどだった。

(水質調査体験)

付近を流れるバグマティ川の汚染状況を生徒に計測してもらい、汚染状況の実感と共にごみ問題への理解を深めてもらうことを目的に実施した。実施日が雨天のため、川まで測定をしに行くのを断念して、あらかじめ川から汲まれた水を測定する形式に変更した。雨季であったため、我々の予想より川が汚染されており、日本の河川との対比が上手くなされなかった。



・レクチャー
(衛生レクチャー)

衛生状態の悪化に伴う悪影響について講義を行ない、ごみ・衛生問題に対する理解の深化を図った。具体的には不衛生な環境を原因とする病気の紹介や、ごみの削減にむけて何が出来るかについてのグループでの議論を行った。アンケートの自由回答欄には、欄内に収まりきれないほどの感想が記入されていた。

(応急処置体験)

適切な応急処置方法と手洗いの習慣付けを図るため、応急処置体験と手洗い実験、体験を実施した。また、下痢治療のための経口補水液に必要な材料を保健室に設置した。消費分は学校に補充してもらう。

・ごみ拾い

実際に校内とその周囲のごみを生徒と一緒に拾うことで、捨てるのは簡単だが、拾うのは大変だということを認識してもらい、ごみに対する意識の改善を図った。

・焼却炉設置

校内におけるごみ処理システムの導入、全校生徒へのごみ処理の習慣付けを目的に、校内に焼却炉を設置した。焼却炉は国内から持ち込んだ煙の出にくいものを利用した。設置直後は説明が足りず、正しい利用方法がされてなかったが、渡航中に使用方法を明文化し、学校に配布して正しい利用を促した。

・コンポスター

生ごみ再資源化システムの導入、有機的なサイクルを生徒に理解してもらうため、コンポスト2個を学校に設置した。クルー滞在期間中の肥料化には間に合わなかったが、帰国後、KORCから堆肥完成の報告を受けた。

・花壇

コンポスターにより生成された堆肥、焼却炉による灰を利用する花壇を設け、視覚的な効果を実感させ、設備の継続的な利用を促した。

・広報

本プロジェクトの認知と環境問題への意識啓発のため、我々とKORCが考えたポスターを学校内、及びその周辺に掲示。また、ポスターが放置されると景観を損ねるため、帰国前に撤去した。9月3日にネパール国営のテレビ局から取材を受け、その内容が放送された。

